

昭和大学歯学部における電子ポートフォリオの活用

昭和大学

医療人に必要な基本的な能力であるコミュニケーション能力、情報リテラシー能力、生涯学習能力、自己評価能力を涵養するため、歯学教育とチーム医療教育を有機的に関連づけ、複数の学部、講座の教員が連携して指導する電子ポートフォリオシステムを構築し、教養課程から専門課程に至る6年間の一貫した教育を行う教育改善に取り組んでいる

1. 導入の経緯

6年一貫のチーム医療教育と専門教育を通じて社会で活躍できる医療人の育成と卒業時に身につけるべき臨床能力を身につけさせるためには複数の学部、講座の教員が連携する必要がある。そこで紙媒体で行っていた指導を電子化し、6年一貫した指導を学年と学部を超えて行う電子ポートフォリオシステムを2008年から試験運用し、2010年から運用を開始している。

2. 利用形態

電子ポートフォリオでは過去に提出した内容を「閲覧サイト」で学生と教員が随時閲覧でき、学生は前回到達できなかった点を目標として「目標書き出しシート」で提出する。教員は目標の妥当性を評価しフィードバックする。また、学生には授業終了後に授業で達成できたこと、できなかったことを「ふりかえりシート」に記入させ、この授業を通じていかに成長したか、今後どのように活かすかを「成長報告書」に書かせる。教員は学生が気付いていない成長に気付かせ、達成できなかったことをできるようにするために、どのようにすればよいかを指導するシステムであり、本システムは4学部連携教育でも活用されている。

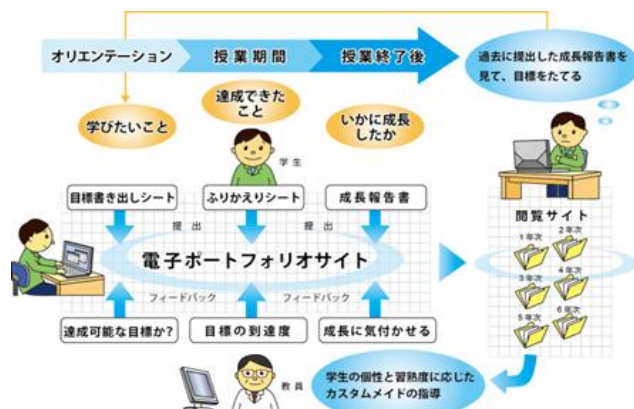
3. 導入の成果

現時点における電子ポートフォリオによる教育効果をまとめると以下の通りである。

- ① 前に記入した電子ポートフォリオを参照し、到達度を考慮した適正な到達目標の設定と達成感の獲得ができるようになった。
- ② 到達目標の達成度を自己評価できるようになり、自己評価能力の向上が図れた。
- ③ 将来の医療人としての自分の姿を常に考えることによって現在の学習の位置づけができるようになり、医療人としての将来の展望を考えることができるようになった。

4. 今後の課題

- ① 電子ポートフォリオ作成の目的とその意義を学生に理解させるためのオリエンテーションの充実と教員を対象にしたフィードバック指導方法のFDをさらに推進する必要がある。
- ② 学生に現在の自分のありのままの姿をポートフォリオに書くように指導を行うことが重要であり、そのためのガイダンスと学生、教員間の信頼関係が重要である。卒業までに必ず身につけられるように指導することを学生に約束するという意識を全教員が共有しなければ共同作業は決して実を結ばない。



電子ポートフォリオの活用例

1年次 歯科医院見学

- ・ 将来が見えた気がして頑張る気持ちになった。
- ・ 患者さんの気持ちを考える難しさを学んだ。
- ・ 患者さんと円滑なコミュニケーションをとることができなかった。

歯科医師としての将来が見えた。
友人とのコミュニケーションの違いに気づいた。



2年次 歯科医療とコミュニケーション

- ・ 今後患者さんとコミュニケーションをとる時は今回の実習で学んだ事を活かして、相手が話しやすい環境作りをしていきたいと思った。
- ・ 初対面の患者さんにどのように接するべきか、具体的な方法やその目的が理解できた。

患者さんに合わせた話しやすい環境作り。
医療面接の目的や方法の理解



4年次 全身の医療面接

- ・ 模擬患者への医療面接は、すこく緊張して、途中何を話しているかわからないときがあった。
- ・ 思った以上に、主訴や必要な事を聞き取るのが難しいことがわかった。

実際の患者に対する医療面接の難しさ

